

出張報告書

令和元年 10月8日

会派名 民主市民ネット

会長 山田庫司郎 様

出張者氏名 平賀貴幸



下記のとおり出張したので報告します。

記

出張期間	令和元年年 10月 5日(土) ~ 令和元年 10月 6日(日) [2日間]						
出張概要	①	月日	10月5日	市町村名	横浜市	会場	湘南とつかYMCA
		目的	お伝の会主催の研修会に出席				
		テーマ	ソーシャルワークという希望～頼りあえるあたらしい公・共・私～				
	②	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
	③	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
	④	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
所見	別紙のとおり						
備考							

※所見については、別紙(任意様式)で作成して下さい。

＜お伝の会 presents 150 人集会＞ソーシャルワークという希望 ～頼りあえる社会とあたらしい公・共・私～

令和元年 10 月 5 日 13:30～17:00

会場：湘南とつか Y M C A

この日は、井出英策略慶応大学教授を中心に集まっている「お伝の会」主催の研修会に参加し、ソーシャルワークについて学びながら活力をいただきました。

まずは井手先生の講演からスタート。97 年から 98 年にかけて苦しくなり始めた国民の生活。ここから 40 代～60 代の男性の自死が大きく増加している。失業者が 230 万人から 279 万人にたった 1 年で増えた。亡くなったのはこの層にあたる。つまり、雇用が不安定化した瞬間に死を選ぶような社会をつくってきたということ。

しかもひとり親世帯は働くと言困になるというおかしい社会構造がある。生活保護を権利として利用するよりも、貧乏だから働くべきと考えてしまう社会にも問題がある。

さらに 17 歳以下の相対的貧困率をみると、OECD 加盟国の中で日本だけが国による再分配を行った後の方が格差の大きくなるいびつな社会。困っているのは誰なのかよく考えなくてはならない。

OECD の中で相対的貧困率は 9 位。ジニ係数で 11 位。明らかに日本は貧しくなっているし、格差は拡大している。国民も気づき始めたが、それを認めていない現状がある。

日本で最も重要な課題は経済と捉えている人が 6 割で、貧困が 4.8%。各国の平均よりも圧倒的に経済を重視する国民性があることも課題。

必要なのは支援なのか。それともみんなの権利なのか。本来は支援ではなく権利が必要なのではないか。「国民みんなが安心して暮らせるように国は責任を持つべき」という課題に、どう答えるかが求められている。

講演の詳細は下記の URL から見るできるので、ぜひ見てほしいと思います。

その後の、グループワークでも関東圏が中心だったが各地の実情を伺い、一緒に解決方法を考える有意義な時間となった。

https://www.youtube.com/watch?v=lK-g2H4bLYI&feature=share&fbclid=IwAR0D7VjBIZoBqJpENSp1H-_oVxIYnlZNhlM9SF8lELKvEeqA8agYBExwbRQ



